



11月19日に衆議院第2議員会館前で「スパイ防止法反対！日米同盟強化による軍拡を許すな」行動（主催は総がかり行動実行委）には800人が集まった

10月に成立した自民党と日本維新の会の連立政権で、「スパイ防止法」の成立が現実味を帯びてきた。現在ですべてに「特定秘密保護法」など関連法は成立している、このまま進むのか。秘密保護法対策弁護団の弁護士・海渡雄一さんの寄稿。

7月の参院選で、自民党、日本維新の会、参政党、日本保守党が「スパイ防止法」制定を公約に掲げ、自民党の高市早苗新総裁も総裁選の公約に掲げた。法案の詳細は正確にはわからないが、自民党と維新の会の連立政権による合意は次のような内容だ。

①2026年通常国会で、内閣情報調査室および内閣情報官を格上げし、「国家情報局」および「国家情報局長」を創設する②国会で、「国家情報会議」を設置する③27年度末までに独立した対外情報庁(仮称)すなわち、米国の情報機関(中央情報局(CIA))のよう

な対外スパイ機関を創設する④情報要員を組織的に養成するため、27年度末までに省庁横断的な情報要員の養成機関を創設する⑤インテリジェンス・スパイ防止関連法制として、基本法、外国代理人登録法およびロビー活動公開法などを25年度中に検討を開始し、速やかに法案を策定し成立させる、というものだ。

次々と関連法成立へ

1985年に自民党が国会に提出した「スパイ防止法案」では、外交や防衛上の国家機密について、公務員の守秘義務を定めて漏洩を防止し、そ

高市政権が成立を狙う「スパイ防止法」とは「あなたの『知りたい』がスパイとされる」

●海渡雄一

「スパイ防止法」に向けた動き	
1985年	自民党が「スパイ防止法」案を提出
2013年	特定秘密保護法成立
2014年	閣議決定で集団的自衛権の行使容認
2017年	共謀罪法成立
2020年	日本学術会議6会員の任命拒否
2021年	デジタル監視法、重要土地利用規制法成立
2022年	警視庁にサイバー局設置、経済安保法成立
2023年	軍拡財源確保法、軍需産業強化法成立
2024年	経済秘密保護法成立
2025年	日本学術会議法改定、能動的サイバー防御法成立

れに違反した場合に外国への通報目的がある場合には最高刑は死刑・無期懲役の厳しい罰則を定めていた。統一協会(当時)の後押しで提出された。だがこの法案は当時の全野党だけでなく、自民党の谷垣禎一氏や村上誠一郎氏ら12人の議員が「民主主義国家では国民に関する情報は国民に開かれているべき」と反対し、廃案後は再提出ができなかった。

その後の第2次安倍政権以降は、戦争体制準備の法律が相次いで制定されていく。2013年の「特定秘密保護法」はこのスパイ防止法案の大部分を実現したものである。違つのは最高刑は10年の拘禁刑とされ、外国通報目的の行為についての厳罰規定はなかった点だ。22年には「経済安保法」、24年に「経済秘密保護法」(経済分野にまで秘密保護法の範囲を拡大)が成立した。

また、22年に閣議決定された「国家安全保障戦略」などの「安保三文書」

7月の参院選の街頭演説で、公務員などを対象に「極端な思想の人たちは辞めてもらわないといけない。これを洗い出すのがスパイ防止法です」と述べた。「特定秘密保護法」や「経済秘密保護法」にもつく、公務員・民間企業社員に対するセキュリティ・クリアランスの中で、政治的な思想・信条の調査までを行うことが想定されているのかもしれない。思想・良心の自由を侵害する「レッドドパー」が企てられる可能性がある。

また、連立政権合意では、国内の情報収集する「国家情報局」、海外からの情報を集める「対外情報」の2本の組織をつくらうとしている。市民活動を監視してきた公安警察、自衛隊の情報保全隊、公安調査庁などの情報機関が統合されれば、国民に対する監視が一気に強まるだろう。政府の施策に異議を述べたり、戦争に反対の意思を表明

で、日本政府は中国やロシア、北朝鮮などを仮想敵国とみなし、世界を敵と味方に二分する考え方を明確に打ち出した。「スパイ防止法」はこの考え方を前提としている。

連立政権合意と各党の公約などを参照すると、次のように想定できる。

まず、特定秘密保護法にはない「外国通報目的の漏洩」を加え、罰則も最高刑10年を死刑・無期へと厳罰化する可能性がある。特定秘密保護法の制定により、防衛情報に対するジャーナリストの取材は極めて困難となったが、もし最高刑が死刑となれば、ジャーナリストはさらに萎縮することが懸念される。戦争は、国のウソから始まる。15年戦争の端緒である満州事変は関東軍の謀略から始まった。日本は諸外国からの圧力を受けて国際連盟脱退を表明。国際的孤立を招いた。

We 2025 12-1 259号 「We」隔月刊 A5判・80頁・1冊 1,000円+税 年間購読 6,600円(6冊/税・送料込み)

特集・ただひたむきに生きるアート

【インタビュー】安藤 榮作さん 「約束の船」の旅路 —3・11から15年、木を彫り続けて

Weフォーラム2025 フィールドワーク報告

【インタビュー】新谷 健太さん 「ただいまとおかえりを温める」 —いろいろな人が行き交う、珠洲の銭湯「海浜あみだ湯」

【報告】能登のフィールドワークに参加して

【寄稿】平良 いずみ 絶望のなみだを希望のひとしづくに —ドキュメンタリー映画「ウナイ 透明な闇 PFAS汚染に立ち向かう」

フェミックス | tel:045-482-6711 http://femix.co.jp/ fax:045-482-6712 E-mail:jimu@femix.co.jp 通販:https://femixwe.cart.fc2.com/

からだは語る 身体性とジェンダーの精神分析

A.レマ [著] (生きづらさを支える心理療法家)

「健康」や「美容」への関心は高まっています。昨今、性アイデンティティにまつわる話題も盛んです。この本では「こころの器」としての「からだ」を介して「わたし」が再生する可能性を、多くの事例からヴィヴィッドに描きます!

12月15日号の1面広告でも詳しくご案内

B5変型判・304頁 ●定価 3,600円+税

木立の文庫 〒600-8449 京都市下京区富永町107-1 Tel.075-585-5277 info@kodachino.co.jp